

城下町コース

モデルコース 約4km

1時間5分
(見学時間を除く)

所要時間の目安

起点 恵比須駅

▼ 10分

1 湯の山街道

▼ 15分

2 三木城本丸跡

▼ 5分

3 旧玉置家住宅

▼ 15分

4 三木鉄道記念公園

▼ 10分

5 旧小河家別邸

▼ 10分

終点 三木駅



コース紹介

城下町エリアに残るお寺や国登録文化財など、独特の風情を残す町屋から往時の面影を巡る歴史と伝統あふれるまちなかを散策するフリーコースです。

湯の山街道

戦国時代、羽柴秀吉が三木城を攻めたとき作戦行動に利用し、また戦傷者の治療に湯の山(有馬温泉)へ送るため整備したと伝わる街道です。

それ以来「湯の山街道」と呼ばれ江戸時代には、大きな陣屋が置かれ、参勤交代に利用されたほど重要な街道であったほか、各地からの湯治客の往来で賑わった街道です。

旧玉置家住宅



文政9年(1826)、三木町を飛地支配していた上州館林藩(群馬県)が上町紅屋惣五郎の屋敷を買い取り、中町角屋宅から切手会所を移転します。棟札により、母屋はこの時に建築されたことがわかります。明治8年(1875)、玉置大器が切手会所の屋敷敷地を買い取り、玉置家住宅となりました。現在、国登録有形文化財となっています。

本要寺・本長寺



本要寺は秀吉の最後の本陣となったところで、別所長治の首検分が行われた場所。江戸時代に、秀吉の地子・諸役免除の制札を持ち、幕府に直訴した二人の義民の遺徳をしのぶ夏の義民祭(7月18日)を執り行っており、また大西与三右衛門の墓がある本長寺(写真)では法要と共に冬の義民祭(12月8日)を執り行い二人の功績をたたえています。

正入寺



姫路城主池田輝政の家老伊木忠次が三木城主となった時に建立し、池田信輝、輝政、伊木忠次、忠繁の位牌を祀り、境内には供養塔もあります。

2 (国史跡) 三木城本丸跡

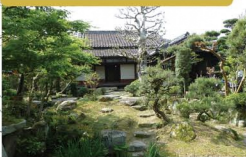


金物資料館



昭和51年に開館。散逸しつつある伝統的手工業の製法や、金物製品の貴重な資料を保存、展示しています。播州三木の鍛冶用具(324点)と製品(300点)、合計624点が、兵庫県で初めて国登録有形民俗文化財に登録されました。

旧小河家別邸



明治の末期に造営された近代和風建築で庭は池泉回遊式庭園。建物は国登録有形文化財、庭園は国登録記念物及び県指定名勝となっています。

凡例

- トイレ
- 駐車場

